

1月31日(水)コンパルホールで国際数学オリンピック金メダリストとして大道芸人でもあるピーター・フランクルさんに「女(ひと)と男(ひと)の人生を楽しくする方程式」と題して講演していただきました。講演会の一部をご紹介します。

# 『女(ひと)と男(ひと)の人生を楽しくする方程式』

講師 ピーター・フランクルさん

私は1953年、共産主義の国ハンガリーで生まれました。父も母も共に同じ病院で医者として働いていました。幼い頃からそういう環境で育ったため、私は、父も母も同視していました。ハンガリーでは労働者はみんな共働きでした。

国の基本的な理念として、男女平等という精神が根底にしっかりとありました。女性の労働力が不可欠という事もあったかとは思いますが、その点は日本と比較しますと、ハンガリーは優れていると思います。学校も全て男女共学でしたし、努力次第で女性も世の中に堂々と進出できました。弁護士、医者、割合も女性が全体の半分以上を占めています。その背景には、女性が働きやすい環境が整えられていた事もあります。女性が出産しても働き続けられますし、賃金の確約も約束されていました。女性が出産後、三年間の休暇が認められていましたし、三年経過後又元の職場に復帰できるのです。しかもそれは三回まで繰り返すことが出来るのです。そして同時にどの企業にも幼稚園が24時間体制で設置されて



デンです。100年以上の歴史があります。福祉制度もしっかりしていますし、教育も全て無料で受けられます。又、男女差別、人種差別排除の思想がしっかりと根付いています。

話は変わりますが、私が日本に来て最も驚いたことは、日本人は家庭に人を招かないことです。男女が共に同じ場所に参加することが少ないということです。ハンガリーでは、いつも人を招きあつては食事を楽しみ、会話を楽しみあっています。人生において楽しんで過ごしています。それに比べますと日本人は意外と視野が狭いですし、世間も狭いと私は思います。狭いグループでの人間関係が目立ちます。それは男性にも女性にも言えます。

男女の能力は100%同じではありませんが、あるデータを参考に申し上げますと、ほぼ多くの男女の能力は平均値内にあると言えます。男であれ女であ

れ同じ人間なのです。女性の皆さん、働く環境を改善するためにも手と手を取り合って発言し闘って下さい。そして女性の権利を勝ち取って下さい。言葉のきれいにこまかされることなく、チャンスを与えられたこととして甘んじることなく、一歩踏み込んで、結果の平等を得る為の制度を勝ち取って下さい。もっとも視野を広げ、行動範囲を広げて下さい。そして、世の中には楽しいことが沢山あることに気付いて欲しいと私は思います。

## 参加者の声

● 男女共同参画社会を目指すには、まず女性が労働しやすい環境を作らなければならないということ。そのためには、諸外国の制度を試験的にでも取り入れていくことが重要だと感じた。諸外国を渡り歩いたピーター氏だからこそ説得力があった。  
(男性20歳代)

● 諸国の平等・不平等を知れた。今、自分の状況を変えるには声をあげ、友と仲良く戦うこと。狭い人間関係の中にいないで、視野を広く何事も楽しみ、新しい挑戦をと学んだ。  
(女性30歳代)

● 結果の平等ということが、とても印象的だった。  
(女性50歳代)